

事例番号:360109

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 4 日

時刻不明 子宮上部の痛みと胎動減少あり搬送元分娩機関を受診

22:17- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少を認める

妊娠 38 週 5 日

0:00 陣痛開始

0:40 常位胎盤早期剥離の疑いで当該分娩機関に母体搬送となり入院、  
超音波断層法で胎盤肥厚なし、羊水ほとんどなし

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 5 日

3:20- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、基線頻脈、軽度遅発一過性  
徐脈を認める

6:25- 胎児心拍数陣痛図で軽度および高度変動一過性徐脈を認める

6:59 経膈分娩

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎(stage III)、臍帯炎  
(stage 2)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 5 日

- (2) 出生時体重:3000g 台
- (3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.02、BE -14.6mmol/L
- (4) アプガースコア:生後1分2点、生後5分6点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)
- (6) 診断等:
  - 出生当日 重症新生児仮死
  - 生後1日 強直性の痙攣様の動きあり
- (7) 頭部画像所見:
  - 生後20日 頭部MRIで大脳基底核・視床に信号異常を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### <搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数
  - 医師:産科医1名
  - 看護スタッフ:助産師1名、准看護師1名

### <当該分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
  - 医師:産科医1名、小児科医1名、研修医1名
  - 看護スタッフ:助産師2名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠38週4日の受診より前に生じた胎児低酸素・酸血症が出生時まで進行したことによって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因を解明することは困難であるが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

#### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

#### 2) 分娩経過

##### (1) 搬送元分娩機関

妊娠38週4日の子宮上部の痛みと胎動減少を主訴とする妊産婦への受診時の対応(分娩監視装置装着、超音波断層法実施、内診)および胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数160拍/分台、基線細変動減少と判読し、胎盤に一致する部位の痛みと暗赤色の性器出血の症状から常位胎盤早期剥離を疑い、当該分娩機関に母体搬送としたことは、いずれも一般的である。

##### (2) 当該分娩機関

ア. 来院時の対応(分娩監視装置装着、血液検査実施、内診、超音波断層法実施、パルスオキシメトリ測定、常位胎盤早期剥離を疑う所見が認められないことからダブルセットアップで経過観察としたこと)は一般的である。

イ. 妊娠38週5日0時48分から1時59分の胎児心拍数陣痛図において、胎児心拍数基線正常脈、160-170拍/分、基線細変動減少、一過性頻脈なし、一過性徐脈なし、リアシュアリングと判読したことは一般的ではない。

ウ. 妊娠38週5日3時20分以降は胎児心拍数基線が正常脈を認める時間帯もあるが、基線細変動減少に加えて基線頻脈と軽度遅発一過性徐脈を認める状況で分娩監視装置を装着し、胎児心拍数を連続監視のうえで経過を観察したことは選択肢のひとつである。

エ. 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

オ. 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

#### 3) 新生児経過

(1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

(2) 新生児仮死のため当該分娩機関小児科に入院としたことは一般的である。

#### 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

##### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

###### (1) 搬送元分娩機関

なし。

###### (2) 当該分娩機関

「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2023」を再度確認し、分娩に携わる全ての医師、助産師、看護師等が、胎児心拍数陣痛図を正確に判読できるよう研鑽することが望まれる。

##### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

###### (1) 搬送元分娩機関

なし。

###### (2) 当該分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

##### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

###### (1) 学会・職能団体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

###### (2) 国・地方自治体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。